

うきは市立大石小学校 学校だより NO1
平成31年4月16日

「校宝の松」

発行者 校長 縄田 淳一



大石小学校の合言葉

～『元氣にあいさつ！めあてにチャレンジ！』～

(コミュニケーション力と自分への自信を身につけさせたい)

ご入学、進級おめでとうございます。

新1年生を迎え、それぞれに進級した2～6年生、全校児童126名で、新しい年度がスタートしました。(「令和」元年のスタートの年でもあります。)



今年も大石小の合言葉は「元氣にあいさつ めあてにチャレンジ」です。

あいさつは、これまでに引き続き、「おじぎをして、大きな声で」のあいさつができること、そしてめあてにチャレンジの部では、今年は特に、「自分に自信をもつこと」ことを大事にします。

その理由は、あいさつを通じて、「人と積極的にかかわる力」を、チャレンジすることで「自分への自信(自尊感情)」を持って、積極的な人に育ててほしいからです。

子どもたちの環境は昔と違い、どんどん変化してきています。ゲームやスマホなどにどっぷり浸った生活、人と直接関わり合って、失敗したり、喜びあったり、学び合う体験が奪われています。その結果、ひきこもり問題、「自分にはよい所がない。」と自信を持たない若者などの増加なども生じています。

だからこそ、コミュニケーション力や自分への自信を育てるのが重要なのです。

合言葉を子どもたちと教職員と保護者、地域の方々みんなでも共通確認し、同じ歩調で子どもたちを育てたいと考えています。どうぞ御支援、御協力のほどよろしくお願いいたします。

**ご入学 おめでとう ございます！
1年生、24名が入学してきました。**



【入学式で緊張している1年生】

9日には入学式が行われました。新1年生を迎え、全児童がそろいました。

今年の1年生は24人。今年は例年になく、桜の花びらが散らずにがんばってくれました。たくさんの来賓の方々の見守る中、緊張した面持ちでしたが入学式を最後まで我慢してがんばることができた。

12日は1年生を迎えての歓迎集会と遠足も行われました。1年生は毎朝、6年生などに手をひかれ、笑顔で登校してきています。



【手をつながれて歩く1年生】



【1年生歓迎集会の様子】

これまでお世話になりました・・・。

どうぞ よろしくお願いします。

4月の異動でご退職、転任された教職員の方々及び今度の異動で転入された先生方をご紹介します。



【転出された先生方】

内田宗隆先生（ご退職後、吉井中へ）
秦 勝樹教頭先生（福富小へ）
重松 純子先生（小塩小へ）
富田 美里先生（江南小へ）
尾籠 美由紀先生（退職）
三浦 美恵子先生（御幸小へ）
井上 常雄先生（山春小）
土岐 由香先生（日田市三隈中へ）
佐々木美紀先生（いずみ保育園へ）

【転入された先生方】

古賀光成教頭先生（吉井中から）
森光 誠先生（福富小から）
佐々木 和先生（吉井小から）
上原 舞華先生（新規採用）
今村 智子先生（江南小から）
古賀 瑤乃先生（山春小から）
宮原千恵美先生（小塩小から）
山崎 茜音先生（新規採用）
江藤 忍 先生（山春小から）
渡邊 邦弘先生（小塩小から）

『しつけ3原則』

戦後の偉大な教育者 森信三先生の「しつけ3原則」の話を紹介します。

森信三先生は、次の三つの躰を真に徹底すれば、それだけで人間としての軌道に乗るとおっしゃっています。この3つの根本的なしつけを、遅くとも小学校低学年までにやることで他のしつけの吸収力が大きく変わり、できるようになるそうです。

- 第一、あいさつ 朝必ず親（教師）にあいさつをする子にすること
- 第二、返事 親（教師）に呼ばれたら必ず「ハイ」とはっきり返事のできる子にすること
- 第三、あとしまつ 履物を脱いだら必ずそろえ、席を立ったら必ずイスを入れる子にすること

平凡で分かり切ったことと思われるかもしれませんが、そこに実に深い意味があるのです。①朝の挨拶によって前向きな姿勢が、②「ハイ」という返事で素直さが養われます。コップの口が下向きになっていたのでは水を注ぐことができません。上向きにすることで水は溜まります。子供の我（が）を取り、上向きのコップのように前向きで素直な心を養うのが、挨拶と「ハイ」の返事なのです。そして履物を揃え、イスを入れる習慣を身につけることで、人生でも仕事でも大切な、後始末のしっかりできる子になるのです。学校と保護者でこの考え方を全員で共有したいと考えています。